



平成25年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月25日

上場会社名 アートsparkホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3663 URL http://www.artspark.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 川端 一生
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 星 和彦 (TEL) 03-3710-2985
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年12月期第3四半期の連結業績(平成25年1月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第3四半期	2,764	—	△80	—	△73	—	△89	—
24年12月期第3四半期	1,726	—	△442	—	△459	—	△580	—

(注) 包括利益 25年12月期第3四半期 △56百万円(—%) 24年12月期第3四半期 △529百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年12月期第3四半期	△13.53	—
24年12月期第3四半期	△87.49	—

※当社は、平成24年4月2日付で株式会社セルシスと株式会社エイチアイの経営統合に伴い、両社を完全子会社とする共同持株会社として設立され、平成24年12月期第3四半期は6か月の変則決算となっているため、対前年同四半期増減率は記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年12月期第3四半期	3,825	2,290	59.2
24年12月期	4,024	2,349	57.7

(参考) 自己資本 25年12月期第3四半期 2,266百万円 24年12月期 2,322百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年12月期	—	0.00	—	—	—
25年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年12月期の連結業績予想(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,700	—	100	—	95	—	90	—	13.56

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年12月期3Q	6,635,570株	24年12月期	6,635,570株
② 期末自己株式数	25年12月期3Q	840株	24年12月期	275株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	25年12月期3Q	6,635,038株	24年12月期3Q	6,635,496株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社は、平成24年4月2日付で株式会社セルシスと株式会社エイチアイの経営統合に伴い、両社を完全子会社とする共同持株会社として設立されたため、平成24年12月期第3四半期実績は、平成24年4月2日から平成24年9月30日までの6か月実績値となっております。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	10
(4) セグメント情報等	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当社グループは、平成24年4月2日設立のため、前第3四半期連結累計期間に係る決算数値の前年同期との対比は行っていません。

当第3四半期連結累計期間（平成25年1月1日～平成25年9月30日）における当社グループを取り巻く事業環境を見渡しますと、パーソナルコンピューター以外でのポータブルなインターネット接続機器の多様化や、デジタルカメラをはじめとする家電機器、車載機器、電子看板、店舗での操作用端末など、実用機器でのグラフィクス表示機能の技術が著しく進歩しており、一般への普及も急速に進んでおります。今後、デジタルグラフィクスの制作から利用に関する技術とサービスや、利便性の高いデジタル機器のユーザーインターフェースの提供は、より一層社会的に重要な基幹活動の一つになっていくものと予想されます。

このような状況の下、当社グループは「デジタル“ものづくり”」の応援と支援を経営理念に掲げ、デジタルによるコンテンツの制作と利用が一般に普及する社会において、引き続き重要なポジションを担い続けられるよう、当社グループの強みであるグラフィクス関連技術とサービス開発の相乗効果を最大限に活かした事業活動を推進しております。

携帯端末市場の中心がスマートフォンへと急速に移行していく中で、当社グループは事業モデルが転換期にさしかかっており、かかる変化を新たな成長機会として捉え、中長期的に企業価値を継続的に向上させる目的で、事業構造改革を進めており、平成25年12月期については、通期での黒字化を実現すべく、コスト削減と利益率の向上を目指す一方で、戦略投資事業における投資の成果であるソリューションの強化を進めております。

当第3四半期連結累計期間においては、各事業セグメントにおいて、継続的に販売活動の強化を推進するとともに、希望退職の実施に伴う人員削減効果等の構造改革の成果が売上原価及び販売管理費の圧縮に貢献し始めております。一方でUI/UX事業において、新たな事業領域への積極的な展開を推進するにあたって、一時的に外注コストが増加しております。

その結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は2,764,150千円となりましたが、UI/UX（ユーアイ/ユーエックス）事業における外注費等の増加を吸収しきれず営業損益は80,929千円の営業損失となりました。経常損益については、当社の持分法適用会社であるガラット株式会社等に対する投資持分について、持分法による投資損失13,055千円を計上しております。また、前期末に引当済の事業構造改革引当金において実際に使用されなかった金額を事業構造改革引当金戻入益として14,934千円計上したこと等により、73,624千円の経常損失となりました。また、四半期純損益は、投資有価証券評価損11,004千円の計上等により、89,814千円の四半期純損失となりました。

事業別セグメントにつきましては、以下のとおりであります。

なお、当連結会計年度より、報告セグメントとして記載する事業セグメント区分の変更又は名称の変更を行っております。

<コンテンツソリューション事業>

コンテンツソリューション事業は、セグメント区分の変更及び名称の変更を行っております。

当社グループのグラフィクス技術による、総合的なコンテンツ関連ソリューション提供を強化するため、従来の電子書籍サポート事業に加え、クリエイターサポート事業における法人向けグラフィクス関連活動を再編し、ロイヤリティ収入と業務受託収入が移行しております。

セグメント区分の変更に伴い、セグメント名称を「電子書籍サポート事業」から「コンテンツソリューション事業」へ変更しております。

電子書籍ソリューションの中心である携帯電話市場におきましては、平成25年9月末で国内携帯電話加入契約数が1億3,488万台（前年比5.9%増）となっております。（社団法人電気通信事業者協会発表「携帯電話・PHS契約数」より）

また、2012年度通期の携帯電話出荷台数が4,181万台（前年比2.2%減）となる中、スマートフォンの出荷台数は前年度比23.0%増の2,972万台となり、総出荷台数に占めるスマートフォン出荷台数比率は71.1%となっております。（株式会社MM総研発表より）

このような経営環境の中、電子書籍ビューア「BS Reader for Browser」を、iPhone 5c/iPhone 5s及び最新のiOS7に対応させる等の施策を推進しております。

また、電子書籍ビューア「BS Reader for Browser」が利用されている電子書籍配信サービス数は約1年で10倍に増加し、現在は約350サービスとなっており、スマートフォン向け売上高がフィーチャーフォン向け売上高を上回るまでに至っております。（平成25年9月自社調べによる）

以上の結果、コンテンツソリューション事業につきましては、総合電子書籍ビューア「BS Reader」を軸として推進する電子書籍ソリューションの売上高が853,365千円、法人向けのグラフィクスソリューションの売上高が83,829千円となり、当事業合計の売上高は937,194千円、営業利益は72,168千円となりました。

<クリエイターサポート事業>

クリエイターサポート事業は、セグメント区分の変更をしております。

法人向けのロイヤリティ収入と業務受託収入をコンテンツソリューション事業へ移行しております。

クリエイターをトータルに支援するクリエイターサポート事業には、グラフィクスコンテンツ制作における新製品「CLIP STUDIO」シリーズや、従来のイラスト制作ソフトウェア「ILLUST STUDIO」、マンガ制作ソフトウェア「ComicStudio」シリーズ、アニメ制作支援ソフトウェア「RETAS STUDIO」等の販売と、インターネットを通じて、イラスト、マンガ、アニメ、小説を制作するクリエイターの創作活動をトータルに支援するサイト「CLIP」のユーザーからの課金収入が属しております。

当第3四半期連結累計期間には、マンガ・イラスト制作ソフトウェア「CLIP STUDIO PAINT」の英語版及び中国語版の販売開始、また、同ソフトウェアがワコム社製ペンタブレットの新製品「Intuos」、 「Intuos Pro」シリーズ各製品にバンドルソフトウェアとして採用されております。

また、クリエイターの創作活動をトータルに支援するサイト「CLIP」においては、平成25年9月末時点の登録者数は33万人となっております。

以上の結果、売上高は454,149千円となりましたが、先行投資による減価償却負担が継続しており営業損失は97,590千円となりました。

クリエイターサポート事業では、グラフィクスコンテンツの制作支援ツール、デバイス、サービスの提供を通じて、グラフィクスコンテンツサービスの制作・流通を支援する基幹プラットフォームとしての収益力強化に引き続き注力してまいります。

<UI/UX事業>

従来のミドルウェア事業につきましては、UI/UX（ユーアイ/ユーエックス）事業に名称を変更しております。

UI/UX事業とは、ユーザーと機器並びにソフトウェアとの間で接点となり、相互がやり取りをするための一連の要素であるUI（ユーザーインターフェース）と、機器やソフトウェアを通じて得られる楽しさや気持ちよさ等の体験であるUX（ユーザーエクスペリエンス）とを一体として考え、デザインとソリューション提供から実装開発までをトータルで行う事業です。

当第3四半期連結累計期間においては、UI関連を中心とした自社製品のライセンス収入に加え、車載機等を中心に受託開発売上が増加いたしました。新製品としましては、スマートフォンで動くアプリケーションの試作品がプログラムなしで作れるプロトタイプ作成ツール「プロトタイピング（exbeans Prototyping）」を販売開始いたしました。また、UI/UX開発において、「デザイン&テクノロジー」をキーワードとして、UI/UXのデザインとそれを実現するソフトウェア開発の両輪をソリューションとして提供するにあたり、「Designによる開発支援」を提供する株式会社U'eyes Designと戦略的業務提携を樹立し、一層のソリューション強化を図っております。当事業年度においては、特に車載機を中心とした自動車関連業界に対する営業活動を強化しており、その為の開発体制の強化を短期的に実施した影響で、一時的に外注費が増加しております。

以上の結果、売上高は1,124,176千円となりましたが、外注費等の増加を吸収しきれず、営業損益は126,719千円の営業損失となりました。

<アプリケーション事業>

通信キャリアやサービス事業者等に対して、サービス運営や受託開発を行うアプリケーション事業では、事業構造改革の一環として事業規模の縮小を進めており、従来からの継続案件についてのみ事業を継続しております。その結果、売上高は251,419千円となりました。また、事業構造改革によるコスト削減効果により、営業利益は21,520千円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、3,825,680千円となりました。うち、流動資産は1,849,907千円であり、主な内容は現金及び預金1,005,161千円であります。また、固定資産は1,967,249千円であり、主な内容はソフトウェア817,959千円、投資有価証券652,459千円であります。

当第3四半期連結会計期間末における総負債は、1,535,041千円となりました。うち、流動負債は1,035,698千円であり、固定負債は499,342千円であります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、2,290,638千円となりました。なお、自己資本比率は、59.2%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年12月期の連結業績予想につきましては、平成25年2月1日に発表いたしました業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法としております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,294,740	1,005,161
売掛金	561,478	537,188
製品	48,491	27,472
仕掛品	24,655	71,860
原材料及び貯蔵品	119,232	112,343
その他	120,371	108,854
貸倒引当金	△10,389	△12,974
流動資産合計	2,158,580	1,849,907
固定資産		
有形固定資産		
建物	112,413	113,436
減価償却累計額	△70,618	△75,913
建物(純額)	41,794	37,523
工具、器具及び備品	266,008	267,572
減価償却累計額	△237,737	△245,326
工具、器具及び備品(純額)	28,270	22,245
有形固定資産合計	70,065	59,768
無形固定資産		
ソフトウェア	885,915	817,959
ソフトウェア仮勘定	25,766	124,753
のれん	34,955	29,712
その他	32,606	31,570
無形固定資産合計	979,243	1,003,995
投資その他の資産		
投資有価証券	599,132	652,459
敷金及び保証金	188,094	192,954
その他	19,474	58,071
投資その他の資産合計	806,700	903,485
固定資産合計	1,856,010	1,967,249
繰延資産	10,349	8,522
資産合計	4,024,940	3,825,680

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	170,305	138,091
短期借入金	190,000	390,000
1年内返済予定の長期借入金	248,576	231,914
未払法人税等	4,271	12,224
返品調整引当金	3,775	8,601
受注損失引当金	—	906
関係会社清算損失引当金	10,844	4,448
事業構造改革引当金	81,133	—
その他	313,512	249,514
流動負債合計	1,022,418	1,035,698
固定負債		
長期借入金	474,391	310,873
退職給付引当金	76,593	68,818
繰延税金負債	102,481	119,650
固定負債合計	653,465	499,342
負債合計	1,675,884	1,535,041
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金	1,867,600	479,126
利益剰余金	△658,100	640,558
自己株式	△71	△283
株主資本合計	2,209,429	2,119,402
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	113,127	146,743
その他の包括利益累計額合計	113,127	146,743
新株予約権	26,499	24,492
純資産合計	2,349,056	2,290,638
負債純資産合計	4,024,940	3,825,680

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月2日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
売上高	1,726,447	2,764,150
売上原価	1,457,837	1,898,155
売上総利益	268,610	865,995
返品調整引当金戻入額	7,086	3,775
返品調整引当金繰入額	2,941	8,601
差引売上総利益	272,754	861,169
販売費及び一般管理費	715,033	942,098
営業損失(△)	△442,278	△80,929
営業外収益		
受取利息	611	371
受取配当金	5,000	6,900
為替差益	—	2,200
関係会社清算損失引当金戻入益	—	6,395
事業構造改革引当金戻入益	—	14,934
その他	686	2,380
営業外収益合計	6,298	33,183
営業外費用		
支払利息	5,857	6,821
持分法による投資損失	11,646	13,055
その他	5,953	6,000
営業外費用合計	23,456	25,878
経常損失(△)	△459,436	△73,624
特別利益		
負ののれん発生益	408,113	—
新株予約権戻入益	611	4,839
持分変動利益	—	7,438
その他	4,328	—
特別利益合計	413,052	12,277
特別損失		
支払和解金	—	7,600
投資有価証券評価損	43,026	11,004
持分変動損失	—	1,395
減損損失	394,407	—
その他	8,317	—
特別損失合計	445,751	19,999
税金等調整前四半期純損失(△)	△492,135	△81,345
法人税等	88,822	8,469
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△580,958	△89,814
少数株主損失(△)	△417	—
四半期純損失(△)	△580,540	△89,814

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月2日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△580,958	△89,814
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	51,833	33,615
その他の包括利益合計	51,833	33,615
四半期包括利益	△529,125	△56,198
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△528,707	△56,198
少数株主に係る四半期包括利益	△417	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月2日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	コンテンツ ソリューション事業	クリエイター サポート 事業	UI/UX事業	アプリケー ション事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	696,631	304,743	545,907	179,164	1,726,447	—	1,726,447
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	1,708	5,606	6,037	13,352	△13,352	—
計	696,631	306,451	551,514	185,202	1,739,799	△13,352	1,726,447
セグメント利益 又はセグメント損失 (△)	4,660	△278,032	△87,522	△140,886	△501,780	59,501	△442,278

(注) 1 セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない
全社収益、全社費用の純額であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行って
おります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	コンテンツ ソリューション事業	クリエイター サポート 事業	UI/UX事業	アプリケー ション事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	933,927	454,149	1,123,835	250,438	2,762,350	1,800	2,764,150
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,267	—	340	980	4,588	△4,588	—
計	937,194	454,149	1,124,176	251,419	2,766,939	△2,788	2,764,150
セグメント利益 又はセグメント損失(△)	72,168	△97,590	△126,719	21,520	△130,620	49,691	△80,929

(注) 1 セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない
 全社収益、全社費用の純額であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行って
 おります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来の「ミドルウェア事業」から「UI/UX事業」へ名称を変更して
 おります。なお、当該変更はセグメントの名称変更のみであります。

また、従来「クリエイターサポート事業」に含まれていたソフトウェアに係るロイヤリティ収入を
 「電子書籍サポート事業」と統合し、「コンテンツソリューション事業」といたしました。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成して
 おり、前第3四半期連結累計期間の「1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する
 情報」に記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

平成25年3月開催の定時株主総会決議により、利益剰余金の欠損填補を行い、資本剰余金のうち
 1,388,473千円を減少し、資本剰余金は479,126千円となっております。